セッション３：スペース班報告および関連状況　議論メモ

吉田道：提出した RFI は web に載せるべきだと思う。

岩室：実は既に載せたが、議論次第では基に戻す。
http://gopira.jp/space_combine.pdf

谷口：SPICA が第一がコミュニティの総意、というのは本当か？

川端：昨年の光赤天連シンポジウムで議論があった。以前からの歴史がある。

谷口：WISH を選ばなかった宇宙理学委員会の見識を疑う

河合：宇宙理学委員会が WISH を選ばなかった重要な理由は、コミュニティの中の位置づけが SPICA 最優先だったから。

谷口：それならばコミュニティの責任になる

川端：この 2 年の間に SPICA が第一という流れを覆すようなことはなかった

大内：これまでの経緯をよく理解していないのだが、最初に SPICA を推薦するときに WISH ははなかったのか？どこかで SPICA と WISH の選択をコミュニティに問うたか？WISH が出てきた時にコミュニティの選択も変わる。状況も変わってきている。

川端：今の展開を想定した議論はされてきていない。WISH 前身の HOP 計画が出てきた時(2005 年)では 2010 年代中頃の打ち上げ予定だった。その後、WISH の議論が盛り上がった印象だが、当初は SPICA -> WISH という流れにあったと思う。その後、SPICA が遅れたが、WISH との関係は去年、中規模計画の公募があった初めて大きな話題として上った。なので議論の時間は短かった。
SPICA 現状の変遷に関しても議論はなかった。WISH や他の計画については前回の検討書には載っていない
（川端追記：セッション 4 の冒頭報告分）光赤天連は長らく TMT と SPICA を将来の大型計画として支援してきた。SPICA は日本独自の冷却技術の継承という流れも有しており、2013 年には SPICA 推進の声明も出している。スペース工程表の骨格は、昨年 11 月の光赤天連スペース計画シンポジウムで議論されて決まった。

山田亨：
一昨年頃から宇宙研の理学委員会で戦略的中型計画に対してどのようにコミュニティとして対応するか議論が始まった。その中でスペース将来計画をまとめた。光赤天連で議論をする点
・SPICA の状況変化に対してコミュニティがどう考えるか
・SPICA 以降の新しい計画をどのように扱うか
をコミュニティに議論するようにお願いした
実際は去年 12 月から 2 月でサイエンスを議論、今日に至る。
現状ではこれまでの総意として RFI を宇宙研に提出、その結果として SPICA を優先方針が決まった。その意味で RFI は web に載せるべき。

川端：
その他で何か議論すべき点はないか。

山田亨：
話が変わるが、昨日、学術会議、天文学・宇宙物理学分科会があった。マスタープラン、中規模計画のとりまとめについて議論があった。
2017 年にマスタープランを改訂することになっている。超大型計画については今回はマイナーな改訂にとどまる可能性が高いが、いずれにしても、そのプランを学術会議が議論中。早くて 12 月に公募要領が出され、来年 3 月に締め切りとなる。
10 月初めに各分科会から、改めて、光赤天連に説明・依頼を予定しているのでその際に検討してほしい。

山田良：
前回のマスタープランは 2014 年だったと思うが、その時には、小型科学衛星は出さないということで小型 JASMINE を出さなかった。今回は出して下さい、との発言だと思うが、どのような区分けをしているのか？

山田亨：
全体のマスタープランを学術会議が決める。分科会としては、超大型計画にはマイナーチェンジに留めるべき、との意見だが学術会議全体ではまだ議論がある。
このような状況なので、今は断定して伝えられないが、10 月初旬にあらためて光赤天連にお願いしたい。そういう意味で、今回は現状報告とさせていただく。
10 月初旬に、学術会議全体の方針が確定的でなければ、分科会としての意向を連絡する予定。天文学・宇宙物理学分科会の光赤天連へのコンタクトは山田が

つとめる。

（敬称略）
（記録係：森谷友由希　改訂：川端）